

# ぱむ・ぱむ通信

No.41

生協の組合員と日本ユニセフ協会を結ぶネットワーク通信「ぱむぱむ通信」は、生協組合員のボランティアグループで発行・編集をしています。生協のユニセフ活動に積極的にご活用ください。



ユニセフリーダー研修会  
グループワークより



ユニセフリーダー研修会  
「マラウイ共和国でのユニセフ活動」より

## ぱむ・ぱむ通信 41号 目次

ユニセフリーダー研修会報告	1
・ユニセフリーダー研修会に参加して	
・ユニセフ活動報告「マラウイ共和国でのユニセフ活動」（荒尾 大介氏）	
トピックス	4
・中国四川省大地震・ミャンマーサイクロン緊急募金報告	
「知っとこ。ユニセフ&世界の子ども達は今『教育』	8
全国のユニセフ活動	10
日本ユニセフ協会福島県支部から「HIV/AIDS写真展&パネル展」報告	

### ぱむぱむ通信 活用のすすめ

- ・写真のコンテンツも充実しているので、カラーコピーでの使用をおすすめします。
- ・全てのページをコピーしなくとも、「知っとこ。ユニセフ」や「世界の子ども達は今」を集めて、資料として活用していただけます。
- ・ユニセフのつどいやユニセフ展、学習会の際に、資料としてご活用いただけます。
- ・店舗の募金箱の近くに置いて、生協のユニセフ活動を紹介する際にご活用いただけます。
- ・生協の管理している文化センターなど、共用施設の雑誌コーナーなどにもご活用いただけます。

8月25日から26日に東日本会場で、8月28日から29日に西日本会場で開催されました。ユニセフ マラウイ事務所の荒尾大介氏の現地報告をはじめ、日本生協連・日本ユニセフ協会・各生協からの活動報告、グループに分れてのワークショップなどのプログラムを通して、情報交換と交流を図りました。

### リーダー研修・交流会 東日本活動の報告

### 2日目の活動から

#### 各生協の事例報告

午前は、私たちの食生活が世界とつながっていることを実感させられたワークショップ「お弁当屋さんゲーム」に続いて、参加生協からの事例報告がありました。いくつかの事例をご紹介します。

注文書(OCR)に案内と募金システムを取り入れたら募金が増えた。募金は100円だけでなく500円、1000円の欄を設けたのが好評だった(ちばコープ)

ラブウォークは、秩父と草加の2コースを毎年恒例化して実施することで、参加者を定着・増加につなげている(さいたまコープ)

“つどい”を開催した450会場で、県支部が用意してくれたユニセフグッズ(2000円セット)を販売。開催者が“つどい”に必要な備品と一緒にユニセフグッズセットもチェックで気軽に申し込めるようにした(みやぎ生協)

芋煮会でユニセフ・ラブウォークを開催。「どんなふうに?」他の生協も興味しんしん。ユニセフ協会から「ラブウォーク」についてやり方等について解説あり。(あいち生協)

#### ユニセフ協力活動の発展に向けて - グループごとにアイディア出し、発表 -

午後はそれぞれがやってみたい活動をグループごとに検討して発表をしました。

いよいよまとめる時間です

A班

ユニセフ活動を広げるにはサポートを育てるこも大切。  
広く知つてもらうには子ども達向けのものもしたい。  
人集めには何か“おみやげ”“楽しみ”がないと。

どこを軸に、と悩んでいたら、サポーター育成も、子ども達向けも可能なアイデアが!「ユニセフすごろく」をつくりながら、ユニセフの知識を深めてもらい、そのすごろくで子ども達が遊び学習する一石二鳥のしあがり。

B班

人集めが大変だから町のイベントとか、人を集めるんじゃなくて人が集まるところへ出かけていって活動してしまおう。

やっぱり他団体に乗ることに!イベントに参加して生協の商品をおいたり、ユニセフ紹介、グループづくりを広めるetc.,もう一つ「ユニセフハウス見学」、これも訪問後はユニセフスタッフにお世話になろうと…。

C班

色々な機会を利用してユニセフ活動をしよう!  
「テレビにでるのは?」「大学や行政に協力を仰ぐのは?」と限りなく広がるアイデア。やることも一つじゃなくて親子参加を基本に年間計画を立てよう。

テレビ出演はなくなったようですが、「ユニセフを通じてつながりを広げよう」と体験型を中心に四季折々の年間計画を立ててくれました。

3班に共通していたことは、参加者を集めることの難しさでした。そのためにすばらしい発想力を発揮して様々な提案をしてくれました。いつものことながら生協メンバーのエネルギーはすごいです!

## 2008 年度 生協ユニセフリーダー研修・交流会 ユニセフ マラウイ事務所で建設担当官 荒尾 大介さんのご報告

ユニセフ マラウイ事務所 建設担当官の荒尾大介さんより、マラウイとはどんな国か、ユニセフはどんな活動をしているのか、現場で何が起こっているのかをお話しいただきました。

マラウイはアフリカ大陸にある国で、マラウイ湖が国土の 1/5 を占めています。国土の約 80 %が標高 1,000 メートルくらいに位置しており、「アフリカの軽井沢」と言われているほど非常に過ごしやすい国とのことです。マラウイの主な産業は農業で、タバコの葉と紅茶、砂糖が主要な農産物です。しかし、かんがい設備が十分でなく、雨に頼る農業を行っているため、雨が降らないなど天候に問題があると、国内の食糧ならびに輸出の主であるタバコや紅茶に大きな影響が出てしまうことから、アフリカでも最貧国となっています。



参加者の質問に答える荒尾さん（右）

マラウイの子どもが直面し、ユニセフが特に関わっている課題としては、食糧の供給難と貧困、高い乳幼児死亡率、HIV/エイズ等が挙げられます。

ほとんどの農民が自給自足をし、あまたの食糧を現金収入にしていますが、収量が天候に大きく左右されるため、現金収入が不安定になっています。また、HIV/エイズ感染率が、15 才から 49 才の間の感染率が国民の約 14% と非常に高いことと、感染した親の代わりに子供が働かなければならないという悪循環が、大きな社会問題となっています。また、2006 年のデータでは、乳児死亡率は、1000 人あたり 72 人、幼児（5 歳以下）死亡率は、1000 人あたり 122 人となっています。ユニセフとしては死亡率を改善させるために、政府や他団体とともに、予防接種やビタミン A 補給、マラリアの予防活動の実施、完全母乳育児の促進、安全な飲み水へのアクセスを増加させる活動などを行っているということでした。

### School for Africa (SFA)「アフリカに学校をつくろう」キャンペーン

2005 年から 2010 年の間に、選ばれた 6ヶ国（マラウイ、アンゴラ、モザンビーク、ルワンダ、南アフリカ、ジンバブエ）において、1000 校新しい学校を設立し、教材の配布、教職員の訓練をし、400 万人の子どもたちを学校に通わせようというキャンペーンです。

マラウイが SFA 対象国に選ばれた理由としては、ドロップアウト率（途中で通学をやめる生徒の割合）が非常に高いというのが挙げられます。マラウイでは小学校に入学する学齢の子どもの 87% が就学していますが、そのうち 40% の児童のみが 4 年生まで進学し（マラウイの小学校は 8 年制）また卒業できるのはその 25% にとどまっているという厳しい状況です。

このドロップアウト率の高さの 1 番の原因は貧困ですが、学習環境（教室、トイレ、給水設備、職員室・教員住宅、職員数など）の不整備も、原因に挙げられるとのことでした。



屋外での学習の様子

特に、トイレについては深刻で、学校にトイレを作るというアイディアがまだそれほど浸透していないそうです。実際に作ってもプライバシーもない簡易トイレとなり、プライバシーのないトイレは女子のドロップアウトの大きな要因とのことでした。また、汲み取って利用するという発想がないため、穴が一杯になると使えなくなってしまうとのことでした。

SFA では、全ての子どもたちが学校へ行き安心して楽しく学べ、子どもたちが求める全てのものを学校が提供できるように、「子どもに優しい学校」づくりの普及をソフト・ハードともに進めています。ハード面では、十分な明かり、換気、広い空間、職員室、倉庫を設け、障がいを持つ子どもも学校に行くことができるバリアフリーの空間を浸透させようとしています。また、衛生教育の学習環境として、必ず井戸も提供することを決めています。トイレでは、プライバシーを保護するために高学年の女の子たちのトイレには敷居となる壁も作るそうです。また、このような設備の整った学校は、教師にとってもプライドをもって働ける環境となり、先生の質の向上につながるということでした。



去年 SFA で建てた学校



ドアもなく、手を洗う水もない簡易トイレ

最後に、現場にいる荒尾さんから支援者への要望として、「皆さんに現状を把握していただくのは非常に大切。どんな問題が現地で起こっているのか、自分たちの支援金がどのように使われているのか、実際そのお金でどう状況が変わったのかということに興味を持つことが大事だと思います。」との言葉をいただき、講演は終了となりました。

以上

全写真: (C)UNICEF/Malawi

サイクロン「ナルギス(Nargis)」の被害から 120 日が経過。  
子どもたちが必要とする支援は確実に現地に届きはじめていますが、  
乾季に水不足が危惧されることから、対応が求められます。



#### 【2008年9月 ミャンマー・ヤンゴン発】

イラワジデルタ地帯とヤンゴンを直撃したサイクロン「ナルギス(Nargis)」の被害から4ヶ月が経過。ユニセフは、現地で子どもたちへの支援が広まりつつあることを発表しました。

主な感染症の蔓延は防がれており、ようやく通常の予防接種キャンペーンも再開されはじめました。子どもたちは、提供された新しい教材を使って、仮設の教室で学習を始めました。17,600人以上の子どもたちが、ユニセフのサイクロンの被害にあった子どもたちを対象とした心理的・社会的なケアの支援を、政府機関やNGOを通じて受けています。

ユニセフは、しかし、汚染された池の水を浄水する作業が難航し、これから乾季にむけて水不足が予想されるため、緊急な対策が求められると報告しています。

「汚染された水を池から汲み出す必死の作業が続けられていますが、乾季の前までにすべての汚染された池をきれいにし、水を入れ替えることはできない可能性があります。水不足に陥(おちい)るリスクの高い地域を特定し、政府や地元コミュニティー、パートナーの人道支援機関と協力して、数ヵ月後に起こりうる深刻な水不足を防ぐことが求められています。」

(ユニセフ ミャンマー代表 ラメッシュ・シュレスタ)



ミャンマー政府は ASEAN、国連機関やその他のパートナーと共に、サイクロン「ナルギス」後の人道支援を行っています。ユニセフは、その他の国連機関や人道支援機関と緊密に連帯をとりながら、水と衛生(トイレ)の支援活動に、中心的な役割を果たしています。

ミャンマー政府によるコミュニティへの直接支援と援助機関からの支援により、現在までに全部で 1,800 の汚染された池がきれいになりました。(内の 442 の池がユニセフの支援を通してきれいになりました。)ほとんどの地域で今すぐに必要な水は供給される見込みですが、一部の地域では、乾季に飲料水や家庭用水として必要な量の水をまかなえない恐れがあります。

また、ユニセフは女性や子どもなどのもっとも困難な状況に置かれている人々の基本的な権利を保障するために、教育、栄養、子どもの保護の活動に、中心的な役割を果たしています。

「ミャンマーはサイクロンによって甚大な被害を受けました。しかし、これは被害の復旧だけでなく、ミャンマーの子供たちや家庭をとりまく貧困を改善する機会でもあります。」

(ユニセフ ミャンマー代表 ラメッシュ・シュレスタ)

サイクロンの被害で 4,000 以上の学校と 600 以上の医療機関が破壊され、何百人の子どもたちが保護者と離れ離れになりました。

ユニセフにより、120 日の間に以下のような支援活動が行われました。

- 飲料水と衛生施設(トイレ)の提供によって、サイクロンの被災から 120 日の間、主な感染症の蔓延を避けることができました。
- 子どもたち 25,000 人以上に、はしかの予防注射とビタミン A のサプリメントを供給することができました。
- 130,000 以上の教科書を含む基本的な学習キットが小学生に配布されました。また、家族を失ったり、離れ離れになったりしている子どもたちと若者の保護のための安心な仮設学習スペース、「子どもに優しい空間」が 100 以上設置され、校舎 800 校が修復されました。
- 子どもたち 17,600 人以上が 101 箇所に設置された「子どもに優しい空間」での心理的・社会的なケアの支援を受けました。
- 保健師、看護師、助産師 130 人以上が支援活動のために、6 ヶ月間にわたり最も被害を受けた地域に動員されました。
- 簡易トイレ 18,000 基が設置されました。



#### ミャンマー・サイクロン緊急募金

郵便振替：00190 - 5 - 31000 口座名義：財団法人日本ユニセフ協会

\*当協会への募金は寄付金控除の対象となります。

\*通信欄に「ミャンマー・サイクロン」と明記ください。

\*送金手数料は免除されます。

詳しくは日本ユニセフ協会 HP から ([http://www.unicef.or.jp/children/child\\_eme.html](http://www.unicef.or.jp/children/child_eme.html))

なお、当緊急・復興支援に必要な資金を上回るご協力をいただいた場合、現在行われている他の緊急・復興支援に活用させていただくことがありますので、ご了承願います。

## 【2008年7月 中国・四川省発】

2008年5月12日に中国四川省で発生した大地震は、死者行方不明者約8万7000人に上る大惨事となりました。地震発生は午後2時過ぎ。多くの学校で授業時間にあたったため、多くの先生や子どもたちの命も失われました。被災者は約2900万人。生き残った子どもたちの多くも、故郷を失い、友人や家族を失いました。



(C)日本ユニセフ協会



(C)日本ユニセフ協会

完全に崩壊したシーファン市洛水の旧繁華街を訪れたアグネス大使。人の行き来が絶えなかったこの通りから、人々のにぎやかな声はもう聞こえてはきません。

地震発生直後から、国連機関として唯一、医療品やテント、毛布、水の浄化剤の提供など、緊急支援を展開したユニセフは、現在、「心のケア」支援に力を入れています。四川省被災地での「心のケア」支援拠点を30箇所に拡大するため、ソーシャルワーカーやボランティアの育成にも力を入れています。



(C)日本ユニセフ協会

アグネス大使は、ユニセフの教育支援活動が展開されている愛心学校(シーファン市高橋村)を訪問。そしてユニセフのスクールキット(教材入りリュックサック)を、愛心学校の子どもたち一人一人に手渡しました。

1ヶ月以上続く猛暑の中のテント暮らし。決して容易ではありませんが、被災地の人々は一日一日を力強く、精一杯生きています。

これから、数ヶ月・数年にわたって続く復興。そして地道に続けていかなければならぬ「心のケア」。引き続き、みなさまのご支援をお願い致します。

## 四川でのユニセフ支援物資配達状況（2008年6月30日現在） 備蓄物資等を流用

支援物資	数・量	総額 (米ドル)	配 達	
テント(16sqm)	400 張	85,877	済	2000 人分
布団	20,000	162,625	済	子ども 20,000 人分
寝袋	4,100	25,107	済	子ども 4,100 人分
緊急保健キット	140 セット		済	140 万人 3か月分
救命キット	80 セット		済	80 の医療所
消毒用備品	80 セット	1390280	済	80 の医療所
ビタミンA カプセル	228 セット		済	子ども 114,000 人分
子ども用栄養補助食	56,950 セット		済	子ども 114,000 人 3か月分

母親用栄養補助食	4,115 セット		済	女性 41,150 人 3か月分
簡易トイレ	80 セット	56,856	済	1日 8000 人分
テント (16.50 sqm)	400 張	89,760	済	2000 人分
女の子用の衣服セット	15,000 セット	177,175	済	女の子 1万 5000 人分
救急車	14 台	145,093	済	14 の地域
男の子用の衣服セット	15,000 セット	172,040	済	男の子 1万 5000 人分
テント (42 sqm)	20 張	15,827	済	600 人分
水浄化剤	25858 個	1,454,081	済	666,000 人 3ヶ月分
子どもの早期開発 /スポーツキット	58 セット	4,086	済	
水浄化剤	20	732,299	済	270,000 人分
折りたたみ式水タンク	70 個		済	270,000 人分
学習キット (児童・生徒用)	180 セット	1,204	済	児童・生徒 180 人分
教師用キット (先生用)	6 セット	43	済	先生 6 人分
殺菌用粉	200 トン	176,000	未	
学校用テント	592 張	1,383,101	未	子ども 29,600 人分
簡易トイレ	20 セット	14,214	未	1日 2,000 人分
学校用テント	408 張	953,218	未	子ども 20,400 人分
水浄化タブレット	53000 個	33,890	未	1,340,000 人 3ヶ月分
保健キット	400 セット	66,048	未	400,000 人分
テント (16.50 sqm)	30 張	8,000	未	150 人分
スポーツキットと図書館	4,400	994,400	未	児童・生徒 700,000 人分
小計		8,141,225		

### 中国大地震緊急募金

郵便振替 : 00190 - 5 - 31000 口座名義 : 財団法人日本ユニセフ協会

\*当協会への募金は寄付金控除の対象となります。

\*通信欄に「中国大地震」と明記ください。

\*送金手数料は免除されます。

詳しくは日本ユニセフ協会HPから ([http://www.unicef.or.jp/children/child\\_eme.html](http://www.unicef.or.jp/children/child_eme.html))

なお、当緊急・復興支援に必要な資金を上回るご協力をいただいた場合、現在行われている他の緊急・復興支援に活用させていただくことがありますので、ご了承願います。

# 知りたい？ 知っとこ。ユニセフ～教育～

Q ユニセフの教育に関する取り組みを教えてください。

## Child friendly schools(子どもにやさしい空間)

ユニセフは この(子どもにやさしい空間)をコンセプトに 取り組んでいます。

inclusive(総括)(すべての子どもに) healthy(健康) protective(保護)を・・・

「すべての子どもに教育を」・特に女の子も学校に通い修了できるように 教材・ノートなどの文房具、黒板などを届けるとともに 学校に衛生設備(井戸やトイレ)を設置したり 先生へのトレーニングを行ったりしています。

学校に行かない

ニジェールにて・・・  
小学校に入学する女子は10人に4人にすぎません。又早婚が教育の機会を奪っている。親の意識改革 啓発につとめている。

イラクにて・・・  
紛争の影響を受けやすい乳幼児に対する支援にユニセフはからを注いでいる

### 女子教育の強化



### 就学前教育



字を読んだり書いたり  
計算が出来ない

注・写真と文章は国が一致しています

識字率

仕事につけない

モルジブにて・・・  
ティチャーリソース センター( TRC )開設。コンピューターを通じて他の島にいる同僚と交流、同時に研修が受けができる

### 緊急事態での教育の復興



読み書きできない役にたつことがあっても知らずにすこします。人にだまされたりすることもある。  
読み書きが出来ない人は 能力がないのではなく、教育の機会を奪われたがゆえに読み書きができないのです。読み書きが出来るようになることで 現実を認識し世界を変えるためにたちあがる。  
だから識字は人間として生きることでもあるのです。  
パウロ・フレイレ(ブラジル教育者 識字教育推進)

ミャンマーにて・・・  
サイクロンで被害した子どもたちのために安全な環境を提供するため「子どもにやさしい空間」を設置し、心のケアにもつとめる。

### 学校に行けない理由

- 学校が近くにない
- 教科書や学用品が足りない
- 先生が少ない
- 水汲みなど、家の手伝いをするため時間がない
- 子ども学校行くと働き手が少なくなるので親が通わせない

### ユニセフの仕事

- 先生を育てる
- 学校をつくる
- 教科書と学用品を届ける
- 親に教育の大切さを伝える
- 仕事をしながら勉強が出来るところを作る
- 学校に行くことが貧しい暮らしから抜け出せることを親に知らせる

### 総合的な取り組み

- 校舎の補修
- 井戸とトイレの建設
- 教師の訓練
- 教科書の印刷
- 地元の資料を活用した教材の製作
- 男女平等の教育内容づくり
- 地域住民の教育への関心を高める



## 世界の 子ども達は今

# 【教育】

(文) 松本 真弓

(絵) 蛭沢 素子

すべての子ども達に教育を！ユニセフは内戦の中でも、災害の緊急時でも、色々な機関と協力して様々な環境に沿った形で支援しています。

内戦の時でも・・



働いていても・・

学校外教育



元、子どもの兵士たちは・・

リハビリを兼ねた学校で勉強します。



緊急支援





ユニセフ福島県支部

「HIV/エイズ写真展&パネル展」を開催しました。

ユニセフ（国連児童基金）は、2006年～2010年までの5年間を“子どものためにエイズと闘おう”を合言葉に“子どもとエイズ世界キャンペーン”と位置づけて、近年急速に広がっているエイズの蔓延を防ぐ取り組みを世界で展開しています。

ユニセフ福島県支部（本部：福島市、花田 勇会長）では、2007年7月の郡山会場、8月いわき会場、白河会場で、この「HIV/エイズ写真展&パネル展」を行い、締めくくりに、2008年2月13日（水）～17日（日）の5日間、花の写真館（福島市写真美術館）で開催しました。この写真展&パネル展は、県と市の教育委員会、福島民報社、福島民友新聞社、朝日・毎日・読売・日本経済・産経・NHK・河北新報社の福島県支局、ラジオ福島、福島テレビ、レビュー福島、福島中央テレビ、福島放送から後援をいただきました。

会場には、172人の方に来場いただき、エイズ募金として9,402円、カード&ハガキなどユニセフグッズの販売9,720円という成果がありました。会場を訪れた、母子連れも、最初は珍しそうでしたが、だんだん真剣にパネルを見詰めていました。また、会社帰りの男性も真剣なまなざしでパネルをご覧になり、募金に協力くださいました。

ご覧になった多くの方が「HIV/エイズ問題は、他人事でなく、私たちの身の回りに起きうることなんだ」との感想を強く持たれたようです。



<参加者の感想から>

私は親子感染は100%するものと思っていたが、治療すれば2%まで減らすことができるのだということを初めて知りました。

エイズのことを正しく認識できました。若者にはまだまだ知識が少ないとと思うので、このようなキャンペーンを中高生にやって欲しい。

<HIV/エイズと闘う4つの方法>

1. 母子感染の予防 抗レトロウィルス薬など予防措置で感染が防げます。
2. 感染した子供の治療 感染の早期発見、適切な治療こそ決め手です。
3. 若者の感染予防 予防に必要なワクチン知識などの若者への普及が急務です。
4. 被害を受けている子どもたちの保護と支援 親や保護者のない子どもの支援・保護が必要です。

<お問い合わせ先は ユニセフ福島県支部：TEL 024-522-5566>

## ぼむぼむ広場

ぼむぼむ通信の通算41号をお届けします。今回はユニセフリーダー研修会の内容をお届けします。みなさんマラウイのことはご存知でしたか？アフリカといえば「暑くて」「砂漠で」「水がない」と、ごくごく単純に考えていましたが、すごく自然が豊かなところに驚きました！！（下条）

全国の活動事例や、ぼむぼむ通信の感想・ご意見をぜひお寄せください。次号は、12月15日発行です。お楽しみに！

ユニセフ\*コープネットワーク  
ぼむ・ぼむ通信  
No.41 2008年9月12日発行  
編集 グループ ぼむ・ぼむ  
スタッフ・編集／尾澤・谷杉・浜崎・福本・藤森・  
松本・山本・谷口・下条  
イラスト／蛇沢  
発行 日本生協連 組合員活動部  
〒150-8913  
東京都渋谷区渋谷3-29-8 コーププラザ11F  
TEL03-5778-8124 FAX03-5778-8125  
ホームページ  
[http://www.unicef.or.jp/partner/hokoku/partner\\_pom.html](http://www.unicef.or.jp/partner/hokoku/partner_pom.html)